

議事要旨(4) 金融商品専門委員会における検討状況

冒頭、加藤副委員長（専門委員長）より、審議事項(4)-1に基づき、金融商品専門委員会における検討状況について、IASB/FASBにおける審議の動向を注視するとともに、適時にこれをフォローする方向で検討を進めているとの説明がなされた。これに続き、審議事項(4)-2～4に基づき、IASB及びFASBにおける検討状況のうち、FV-OCI区分（負債性金融商品）について沖本研究員、金融資産及び金融負債の分離について関口専門研究員、減損について神谷専門研究員より、説明がなされた。

説明の後、委員等からの主な発言及び事務局からの説明は以下のようなものであった。

（FV-OCI区分（負債性金融商品））

ある委員から、第3の区分であるFV-OCI区分が導入されることは、非常に重要な決定であり、支持するとの発言があった。この理由として、同委員は、邦銀では、貸出に比べて預金が大幅に積み上がるという預貸ギャップが大きい状態にあり、この結果として国債など大量の債券を保有しているが、こうした債券ポートフォリオにおいては、価格変動リスクを管理しつつ、金利収入の獲得を目指しており、FV-OCI区分がビジネスモデルに合致している、と述べた。

また、同委員は、当該区分についてリサイクリングを行う扱いに関して、評価損益と実現損益の扱いが異なるのは当然であるとして、賛意を示した。

一方、同委員は、残余区分がFV-PLとなる扱いについては、トレーディング目的で保有している訳ではないにもかかわらず、キャッシュ・フロー回収の要件を満たさないためにFV-PLに分類されてしまう資産があり得るのではないかという観点から、分析が必要と述べた。

（金融資産及び金融負債の分離）

ある委員から、金融資産の分離に関して、複合金融商品が管理上区分されている場合、会計上も分離処理を認めるべきとの発言があった。

ある委員から、金融資産の分離をしないことが暫定決定されたが、金融資産についてFVOCIの分類が設けられることにより、変動利付債等に係る日本の関係者の懸念が緩和されることになるのかとの質問があった。これに対して、事務局からは、IASB及びFASBの2月の審議において契約キャッシュ・フロー特性の評価が議論され、金融商品の構成要素（元本、貨幣の時間価値への対価、商品の信用リスク）の関係が重大でない程度に修正されている場合、ビジネスモデルに応じてFV-PLとしないことが可能とされており、この点に照らして判断することになると考えられるとの回答があった。

(減損)

ある委員から、発生損失モデルから予想損失モデルに変更される中、予想信用損失の見積りに際し、どのような要素を考慮すべきかが実務上の懸念となることから、過度なコストと労力なしに合理的に利用可能な情報を考慮することが暫定決定されたことを支持する発言があった。また、バケット 1 からバケット 2 又は 3 に移転した銀行ローンについて、金利等の条件変更の支援を行った後、債務者の財務状況が健全な状態まで復帰した場合のバケット間の移転の考え方について質問があった。これに対し事務局からは、バケット 1 への移転は、条件変更後も当初契約時の信用の質の水準を起点として判断することになるため、契約当初の信用の質の水準からの悪化がバケット 1 にとどまる程度の悪化にまで回復した時点で、バケット 1 へ移転するものと考えられるとの回答があった。

ある委員から、重大性がある財務要素のない売掛債権が、当初認識時からバケット 2 又は 3 に区分されることが暫定的に決定されていることについて、今までの検討ではバケット 2 又は 3 は信用の質の悪化による不良債権をイメージしたものではないのかとの質問があった。これに対して、事務局からは、一年以内に回収される債権は、バケット区分にかかわらず、測定される予想信用損失が同じであるため、事後的なバケット間の移転のトレースの負担を回避するという実務的な観点から、簡便的なアプローチが認められたものであり、結果として、バケット 2 又は 3 に不良債権ではない債権が含まれることになっているとの回答があった。

ある委員から、重大性がある財務要素のない売掛債権の簡略化した形式の 3 バケットアプローチは、重大性がある財務要素のある売掛債権に認められている簡略化したアプローチと同じ内容であり、重大性がある財務要素の有無にかかわらず、同じ会計処理が取れると考えてよいかとの質問があった。これに対し事務局からは、同じ会計処理になると考えられるとの回答があった。

ある委員から、金融機関以外の企業について、現行の実務から大きな変更がないと考えてよいかとの質問があった。これに対して、事務局からは、現行の実務においても、さまざまなケースがあると考えられ、変更がある場合も想定されるとの回答があった。

以上